

ミャンマーの母子に移動クリニック

内戦終結後のカンボジアで小児医療に取り組んできたNPO「フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー」(FWAB)と日本支部(FWABジャパン、目黒区)が、新たにミャンマーで母子のための移動クリニック支援に取り組んでいる。首都ヤンゴン南部で医療機関のない六つの農村が対象。期間は来年1月までを予定している。

【夫彰子】

NPO FWABジャパン

FWABは、写真家の井津建郎さんがカンボジアで撮影取材中、地雷被害に遭った子供らに出会ったのを機に、小児病院建設を目指して95年、米ニューヨークで設立した。99年にアンコールワット遺跡近くで開院した小児病院は当初、外科外来しかなかったが、内科や入院病棟を順次増設。今年1月からは、現地のカンボジア人自らが病院運営を行う「自立」に成

6村を順次巡回

医師や看護師
や看護
看

功した。一方、今回のミャンマーでは、医師や看護師が6村を月2村ずつ巡回して子供の診察・治療に当たり、栄養指導のための母親向け料理教室も。医療活動は移動クリニックで実績のある現地のNGOが主に担当し、FWABジャパンは活動資金や医薬品代計約160万円を拠出し、小児医療や母子保健の専門家を派遣する。

FWABジャパン事務局の杉本ちづるさんは「鎚国だった軍事政権時代から民主化が進んだ結果、ミャンマー国内で国際協力を進めやすくなり、国民の間にも国づくりへの参加意識が強い。対象地域ではビタミン不足や発育の遅れが懸念される子供も少なくなく、期間終了後も何らかの形で支援を続ける道を模索したい」と話す。寄付などの問い合わせはFWABジャパン(03・6421・7903)。



移動クリニックで診察を受けるミャンマーの子供
FWABジャパン提供